

令和6年度 学校評価（目標設定）

	視 点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取 組 の 内 容	
				具体的な方策	評価の観点
1	学習指導 教育課程	児童・生徒の「生きる力」を育むために、資質・能力の三つの柱に基づく12年間を見通した系統的、発展的な指導内容を具体的に組織、配列し、特色ある教育活動を展開する。	①児童・生徒が「何のために学ぶのか」各教科等を学ぶ意義や校外学習等の目的を整理し系統的、発展的な指導に当たる。 ②個別教育計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげ、特色ある教育活動の展開に生かす。	①各学部の運営要項やシラバス等で各教科等の内容や時間配分、校外学習等の目的を整理し、教職員間で共有する。 ②各学部やグループが個別教育計画の実施状況の評価を根拠に授業改善や必要な人的・物的資源の確保などの検討に当たる。	①児童・生徒の実態に基づいて教育の目標や内容を整理し、学部内や各学部間で共有するとともに、保護者等に説明ができたか。 ②各学部やグループが連携・協働し、個別教育計画の実施状況の評価に基づき、教育課程編成に創意工夫を加えたか。
2	児童生徒指導・支援	児童・生徒が自己を肯定的に受け止め「互いを尊重する心」を育むために、児童・生徒が抱える課題や困難をチームで確実に把握し、必要な支援の充実や授業改善の推進を図る。	①登校や集団への参加が難しい児童・生徒や保護者の心情を理解し、適切な支援や関係機関との連携につなげる。 ②自分専用端末の効果的な活用方法やコミュニケーション支援の場面等を教員間で共有し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する。	①専門職とともに自立活動の観点から児童・生徒の発信を確実につかみ、家庭や関係機関と連携・協働して支援の手立てを講じる。 ②ア個別教育計画に基づき自分専用端末を活用し、コミュニケーションや情報活用能力の育成を図る。 ②イ実践事例を「1人1台端末活用ガイドライン」にまとめ、児童・生徒が自ら手がかりに気づき主体的に学ぶ方法を、校内の学び合いを生かして共有する。	①チームで講じた支援の手立てや方法、配慮が、登校や集団参加が難しい児童・生徒の心理的な安定や人間関係の形成に寄与したか。 ②ア本人・保護者とともに自分専用端末を活用した支援の手立てや方法を考えることができたか。 ②イ校内研究の取組が、教職員のICT活用指導力の向上を図り、児童・生徒主体の授業づくりに寄与したか。
3	進路指導・支援	地域の中で豊かに暮らし、働くことにつながる教育活動を展開するために、地域の関係機関との連携・協働の充実を図る。	①児童・生徒が学びを地域での生活に生かそうとするために、他者との協働による学びの充実を図る。 ②地域の関係機関との連携・協働の充実を図り、児童・生徒の地域の中での暮らしや、働くことにつながる教育活動の展開に生かす。	①ア個別教育計画を活用し児童・生徒が他者と協働して「考え・わかり・できる」よう必要な支援を保護者や実習先等と共有する。 ①イ他者との協働を軸に各教科や実習等の目的や内容、指導形態等の見直しを図る。 ②進路に関する学習や保護者対象の勉強会等を、地域の関係機関とともに企画し児童・生徒の将来の生活や必要なスキルと関連づけて指導・支援の充実を図る。	①ア個別教育計画に、人や物との関わりの内容を記載し、客観的アセスメントにより必要な手立てや方法を講じることができたか。 ①イ児童・生徒が学習で身につけた力を、社会や職業生活で活用する場面を創りだすことができたか。 ②進路に関する学習や保護者対象の勉強会等を、地域の関係機関とともに企画・開催し、教育活動の展開に生かすことができたか。
4	地域等との協働	地域の関係機関が積極的に学校運営に参画し、創造的な教育活動を展開するとともに、児童・生徒が地域の小・中学校等で安心して学べる教育環境を構築する。	①地域の関係機関の積極的な学校運営への参画をねらい、児童・生徒の地域での学びや暮らしの充実につながる創造的な教育活動を展開する。 ②児童・生徒が地域の小・中学校等で安心して学べる教育環境を構築するため、互いの専門性を生かした組織的なセンター的機能の充実を図る。	①ア学校運営協議会の切れ目ない支援部会と連携・協働し児童・生徒の地域での暮らしに必要な地域との協働の仕組みを構築する。 ①イ橋本高校と分教室との日常的な交流や共同学習の充実を図るために、自立活動教員との連携や、進路指導・支援に係る情報交換等を活発に行う。 ②地域の小・中学校等における交流及び共同学習や巡回相談等において、互いの専門性を生かし、多様な教育的ニーズに対応できる教育環境を構築する。	①ア児童・生徒が地域の中で「人と関わる力」を育み、地域の中で暮らせるよう、地域との積極的な協働を図ることができたか。 ①イ2校連絡会等において、互いの専門性を生かした活発な協議を行うことができたか。 ②センター的機能は、本校の児童・生徒が小・中学校等で学ぶ上で必要な、特別支援教育の支援体制構築に寄与したか。
5	学校運営 学校管理	児童・生徒が安全に安心して学べるよう、専門性向上に向けた人材育成を充実させ、持続可能な教育環境の構築を図る。	①専門性を向上させ、児童・生徒の人権を尊重する上で必要な人材育成の充実を図る。 ②さまざまな働き方に配慮した業務改善を進め、教職員の心身の健康の保持増進を図る。 ③老朽化の対応や児童・生徒の学びの充実につながる機能改善に組織的、計画的に取り組む。 ④地域と協働し、防災教育や食育、通学支援等の充実を図る。	①年次研修や教材研究等を活用し、教職員が自ら学びをデザインし学び続ける取組を組織的に行う。 ②学校運営協議会等で業務改善の効果検証を行い、緊急に取り組む課題を整理し対応に当たる。 ③全校の意見を吸い上げ、優先度の高い修繕や学びの充実につながる機能改善に教育局と連携し取り組む。 ④地域の方と協働して防災訓練を行うなど、丁寧な情報発信と意見収集を行う。	①人材育成の目標を設定し教職員が主体的に学べる環境(研修形態)を用意することができたか。 ②教育課程改善で生み出された時間の活用方法について、課題を整理して今後の展望を提示できたか。 ③組織的、計画的に老朽化対応や機能改善を行うことができたか。 ④地域と協働し防災教育や食育、通学支援等の充実を図ることができたか。